

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」
～ 「真の学力」育成の継続的な取組を目指して ～

学力向上目標

- 全校に児童に対して、
- 基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。
 - ・当該学年で習得すべき漢字の読み書きができる。(自校テストで80%以上)
 - ・たし算、ひき算、かけ算、わり算ができる。(自校テストで80%以上)
 - 思考力・判断力・表現力を高める。
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査(算数)「思考力・判断力・表現力」で平成31年度(数学的な考え方)より自校の平均正答率を3pt向上させる。
 - 主体的に学習に取り組む態度を涵養する。
 - ・さいたま市学習調査【学習に関する関心・意欲・態度】における「国語の勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合を令和2年度の値より3pt向上させる。

具体的な手立て

- 1 学力向上の基盤となる学校生活全体の規律の確立
 - (1) 学年、学校の共通理解、共通行動に基づくきめ細かい教育活動の実施
 - (2) 生徒指導部が中心となった積極的な生徒指導の推進
 - (3) いじめに対する毅然とした指導
 - (4) 児童の心のサポートの充実
 - (5) 日進北小と宮前中の小・中連携を通じた生徒指導のきまりの共通理解
- 2 子どもたちが主体となる授業づくり
 - (1) 各教科における「基礎的・基本的な知識・技能」の定着、朝学習の充実
 - (2) タブレット端末の活用方法の実践と研修を実施
 - (3) 研修推進委員会をもとに、さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業を取り入れた実践研究を実施
 - (4) 学習課題の明示と学習の振り返り、学びの足あとを残すことによる知識の定着
 - (5) 「よい授業」アンケート実施による授業改善
 - (6) さいたま市学習状況調査の結果の分析の活用
 - (7) 生活調査と児童の学習状況の関連を考察、分析しての学習指導への活用
- 3 家庭・地域と連携した学習環境の整備
 - (1) 家庭学習は、全校で共通理解を図り、発達段階を考慮した上で、系統的にかつ同一歩調で行う。

結果

- ・自校テストでは、漢字や計算などですべての学年で80%を2～3ポイント上回った。
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果では、無回答の割合が減った。
- ・さいたま市学習状況調査における「自己有用感」が全体的に、例年より上回った。
- ・ICTを活用した学習が各学級で進み、オンライン授業の進め方も工夫されるようになった。

今年度の振り返り・次年度に向けて

- ・今年度実施された全国学力・学習状況調査の数値をもとに、次年度より数値を比較して、結果の分析をしていく必要がある。
- ・近年の「自己有用感」数値上昇傾向を保ち、さらなる向上を目指す。
- ・ICTを活用した授業のさらなる工夫を目指す。